

第23回日本脳神経血管内治療学会総会

シンポジウム4

CAS時代を迎えた頸動脈狭窄症の治療戦略
より安全な血行再建を目指して

CASサーベイランス報告

神戸市立医療センター中央市民病院 脳卒中センター

山上 宏、坂井信幸、全国125協力施設

Purpose & Methods

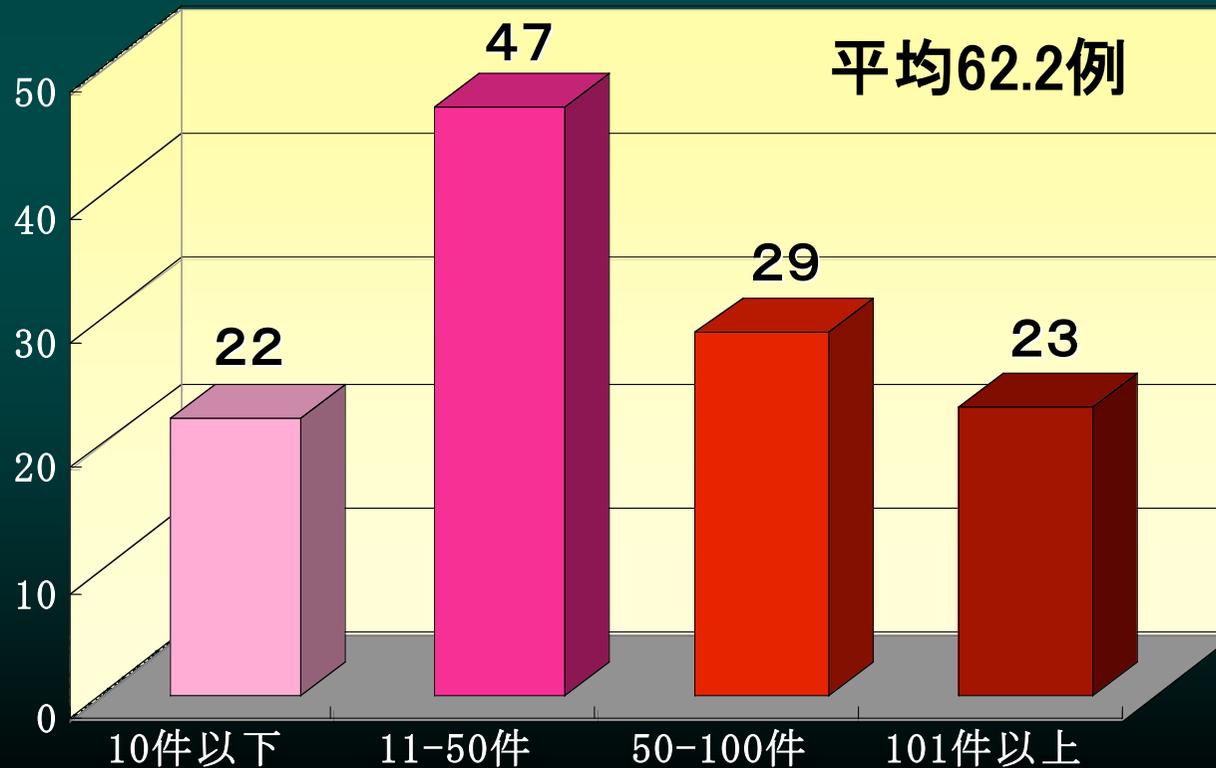
オフラベル(適応外使用)状況下に実施されていたCASの実態を把握し、承認後のより安全な治療に役立てることを目的に、本学会専門医に2007年6月30日までのCAS施行例について、アンケート調査を行った。

回答をいただいた施設： 125施設

Result : Background

術者(または責任医師)の経験件数 **7929件**

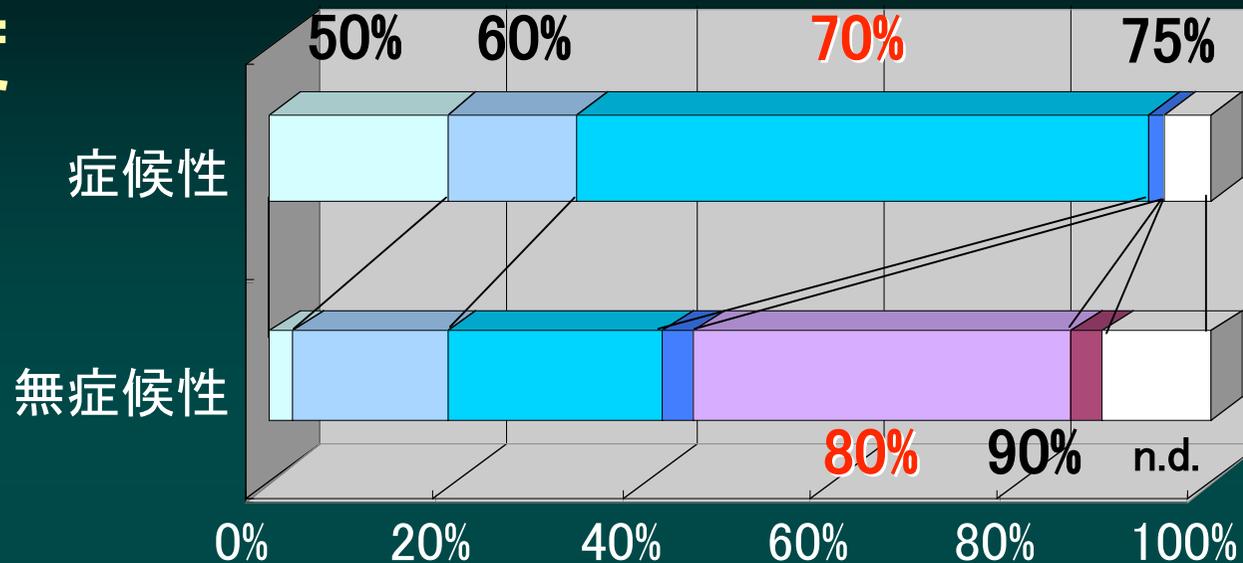
技術的成功 **7527件**
(ステントを留置し、残存狭窄30%未満) **(94.9%)**



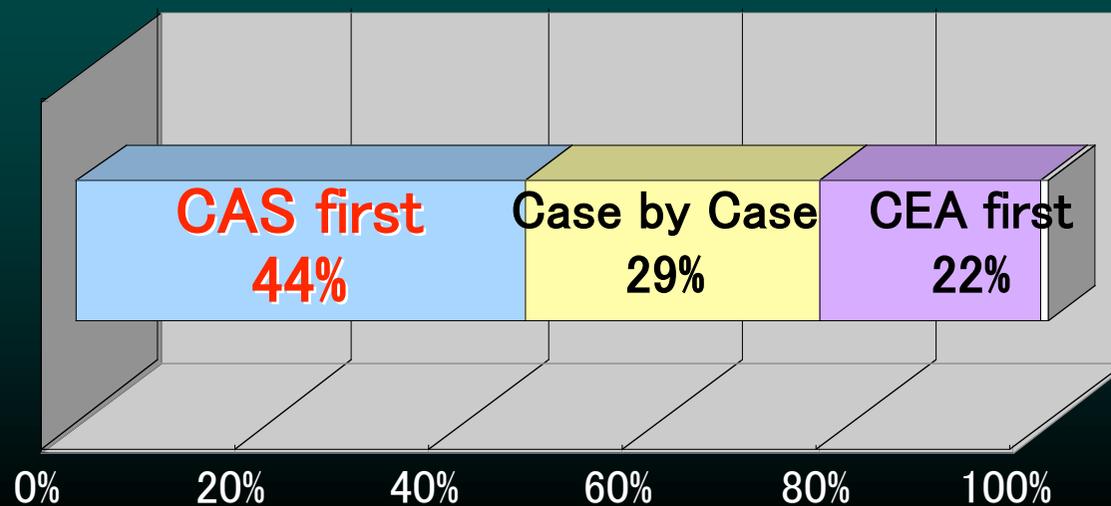
経験年数
1~13年
(平均6.1年)

Result : Indication

狭窄度

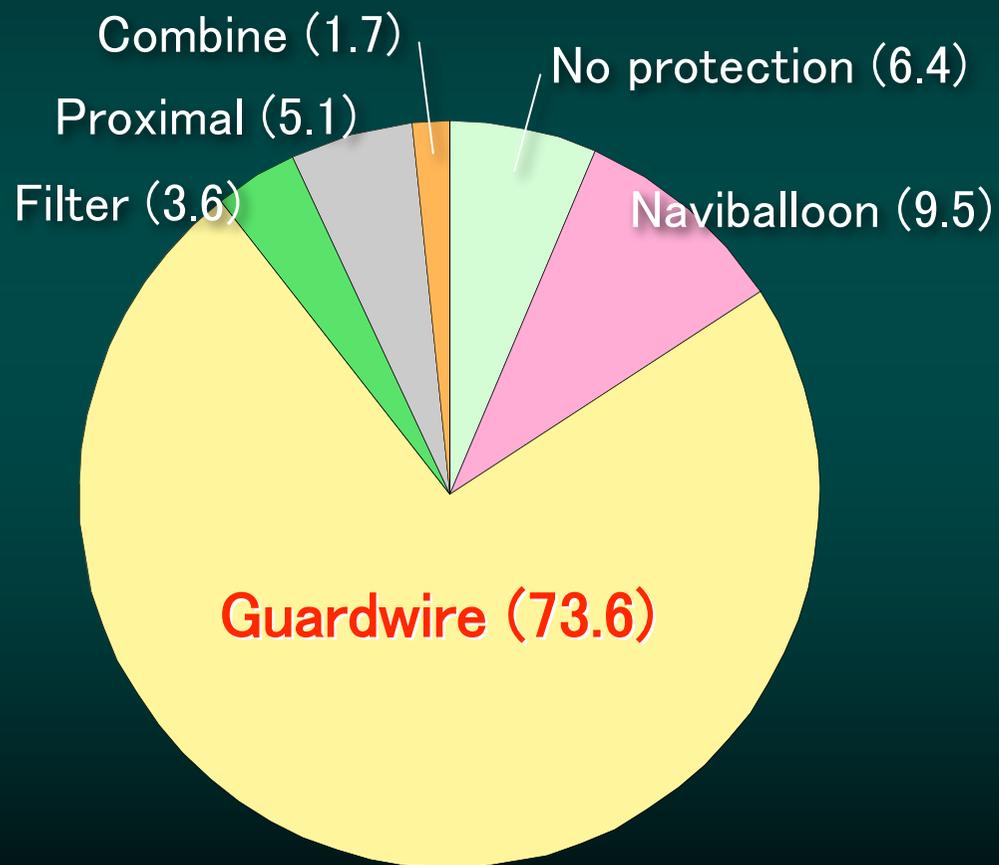


治療選択

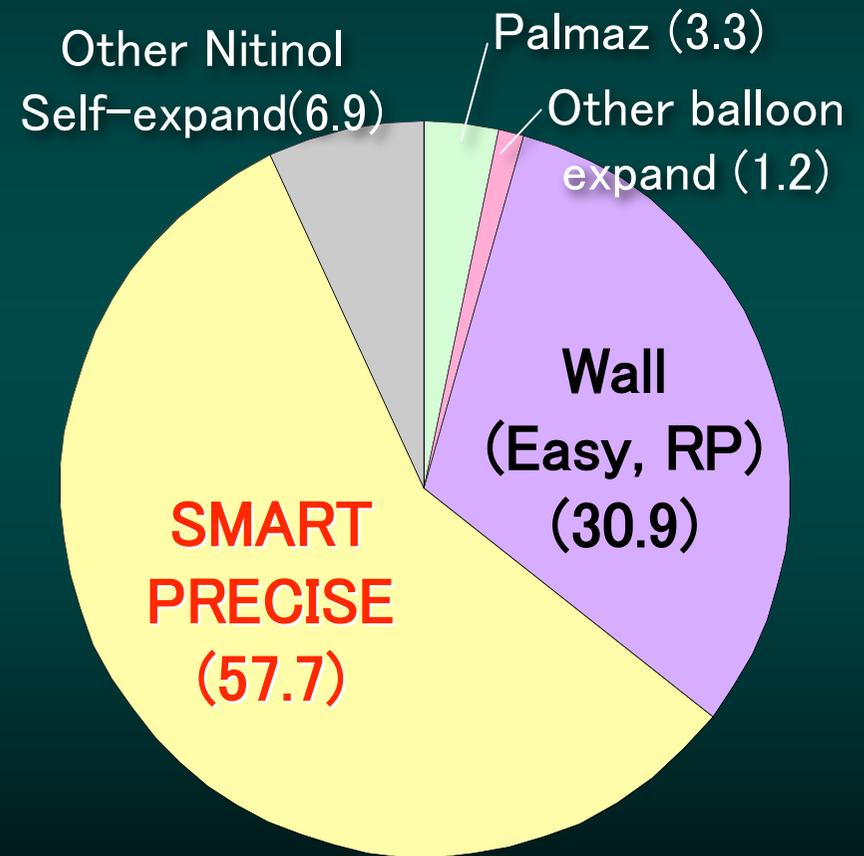


Result : Devices

Protection device



Stent



Result : Outcome at 30days

Total	503 (6.7%)
-------	------------

Death	45 (0.6%)
-------	-----------

Major stroke (mRS 3–5)	77 (1.0%)
------------------------	-----------

Minor stroke (mRS 1–2)	134 (1.8%)
------------------------	------------

Transient deficit ($\geq 24\text{H}$)	104 (1.4%)
---	------------

TIA ($< 24\text{H}$)	143 (1.9%)
------------------------	------------

(n = 7527)

Result : Complications (1)

神経症状を伴う合併症の頻度(%)

	術中	@30日
脳虚血(血行不全)	2.2	0.3
脳虚血(塞栓症)	1.8	0.8
その他の脳虚血症候	0.3	0.1
眼合併症(網膜虚血)	0.4	0.3
過灌流(出血)	0.08	0.4
過灌流(非出血)	0.2	0.8
その他の脳出血	0.01	0.04

Result : Complications (2)

その他の合併症, % (症候を問わない。30日以内)

Stent内血栓形成	1.0
穿刺部血腫 (治療期間に影響したもの)	1.4
コレステリン塞栓症	0.2
腎機能低下 (治療を要したもの)	0.7
徐脈 (24時間以後も遷延)	5.2
低血圧 (治療を要したもの)	13.0
その他、分類不能	0.5

1ヶ月以降の成績, %

症候再発 (同側の虚血イベント)	0.5
再狭窄 (狭窄度50%以上)	1.9
再治療	1.6

Conclusion

- 当院(KCGH/IBRI)と全国調査における、CAS施行30日以内の成績は以下の通りであった。

	当院(407件)	全国(7527件)
死亡	0.5%	0.6%
Major stroke	0.7%	1.0%
Minor stroke	4.7%	1.8%
一過性症候	0.7%	3.3%
<hr/>		
Total	6.6%	6.7%

- これまでの本邦でのCASの成績は、過去のCEAと比べて同等であるといえる。
- Angioguard XPの保険適応開始以後も、同程度の安全性を保つための努力が必要であると考えられる。

謝 辞

今回のアンケート調査にご協力いただきました、全国125施設の本学会専門医および会員の先生方に厚く御礼申し上げます。

本調査の詳細な結果は、学会誌Journal of Neurovascular Therapyにおいて報告させていただきます。

本アンケート調査に未回答の御施設におかれましても、今年中のご報告をいただけましたら幸いに存じます。